

職朝での校長挨拶 21

おはようございます。今回は人間が自己存在に不安を抱えているために、人間関係が「人間」と「人間」の関係にならない、自分にとっての関係、自分のための関係にしかならない、そのようなお話をいたしました。具体的に言えばその関係とは、距離感を含んだ役割です。人間は親子、先生と生徒といった役割の中で自己存在を確認します。ですから生徒に先生と呼ばれない、子どもにお母さんと呼ばれないことは大変つらいものになります。

このことは人間関係が生の「人間」と「人間」の関係ではないことを意味します。またそうでないと困るわけです。距離感を含んだ役割があるからどう振る舞っていいかわかるのです。生の「人間」と「人間」ではどう振る舞っていいのかも分かりません。

しかしヘーゲル（ドイツの哲学者）は人間のことを「自己意識」と呼んでいます。人間は人間に対することによってのみ人間である」と言っています。これは私と他者との相互承認（お互いが人間として認め合う）の問題ですが、そんなことが本当に出来るのか。ヘーゲルはその問題を先鋭化して、悪と赦し、罪と赦しの問題として考えています。続きは次回です。本日もよろしく願いいたします。